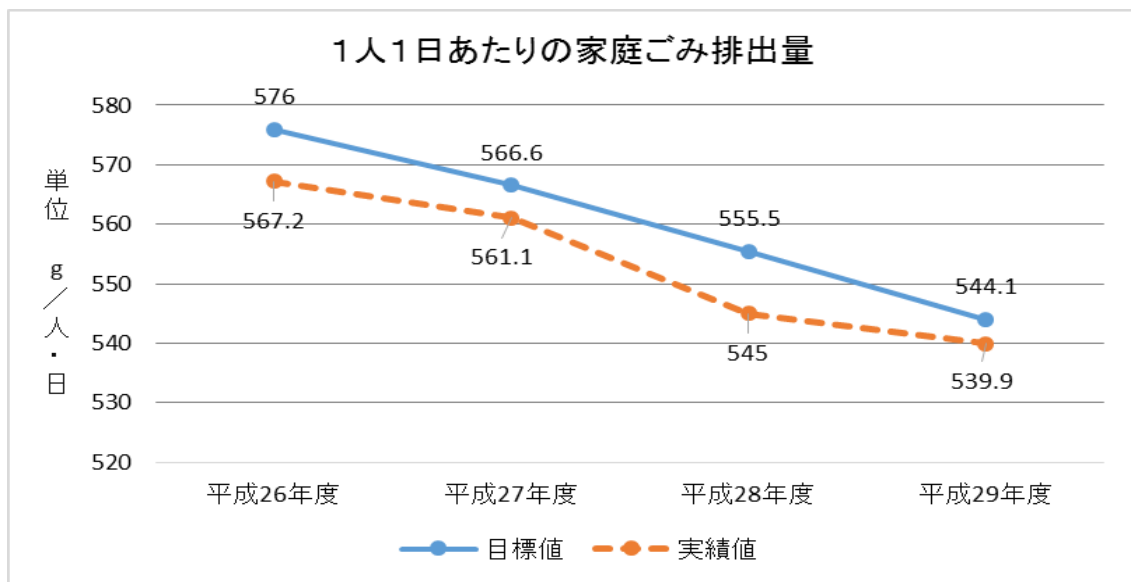


第三次足立区一般廃棄物処理基本計画における目標値及び実績値

1 目標：1人1日あたりの家庭ごみ排出量 平成35年度目標…480g/人・日



【低減目標】

単位：g/人・日

	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
目標値	576.0	566.6	555.5	544.1
実績値	567.2	561.1	545.0	539.9

※家庭ごみ排出量＝区収集ごみ量（可燃・不燃・粗大）

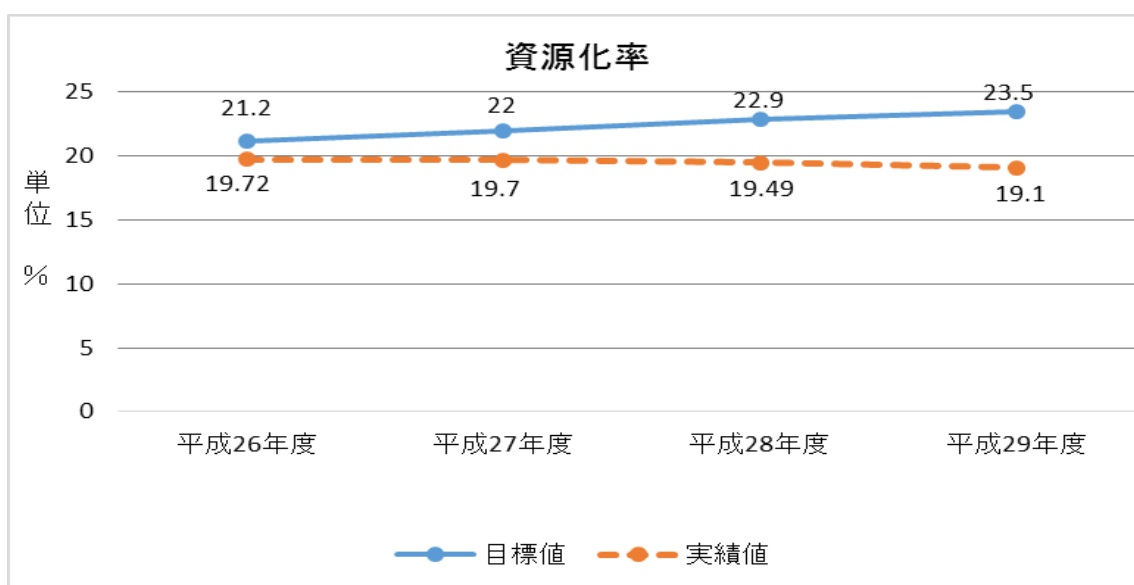
○現状分析

あだち広報や足立区ごみ出しアプリに加え、「紙資源分別バッグ」等を活用し、正しい分別方法を周知したことや、地球環境フェア等のイベントで食品ロス問題を啓発したこともあり目標値を達成している。

未使用食品や調理くず等の厨芥ごみの削減（食品ロス問題等）、厨芥ごみに約80%含まれている水分の水切りを徹底することで、さらなるごみ減量に繋がると考える。

第三次足立区一般廃棄物処理基本計画における目標値及び実績値

2 目標：資源化率 平成35年度目標…26.6%



単位：%

	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
目標値	21.2	22.0	22.9	23.5
実績値	19.72	19.70	19.49	19.10

資源行政・集団回収量＋不燃・粗大資源化量

$$\text{※資源化率} = \frac{\text{資源行政・集団回収量} + \text{不燃・粗大資源化量}}{\text{区収集ごみ量（可燃・不燃・粗大）} + \text{資源行政・集団回収量}}$$

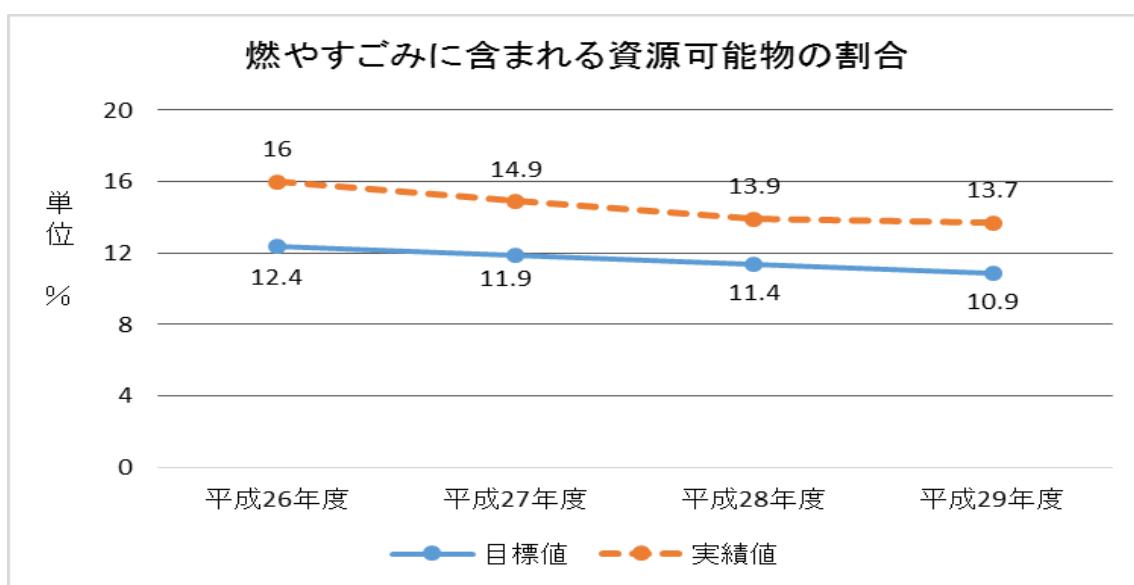
○現状分析

年々ごみ量は減少しており、粗大ごみとして排出される木製家具等や布団の資源化を開始したが、それ以上に資源行政・集団回収量の減少率が大きいため、資源化率の向上に繋がっていない。

特に、新聞、雑誌等の発行部数が低落傾向にあるため、古紙の行政回収量及び集団回収量ともに減少した。

第三次足立区一般廃棄物処理基本計画における目標値及び実績値

3 目標：燃やすごみに含まれる資源可能物の割合 平成 35 年度目標…7.9%



【低減目標】

単位：%

	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
目標値	12.4	11.9	11.4	10.9
実績値	16.0	14.9	13.9	13.7

※組成調査に基づく資源可能物の割合

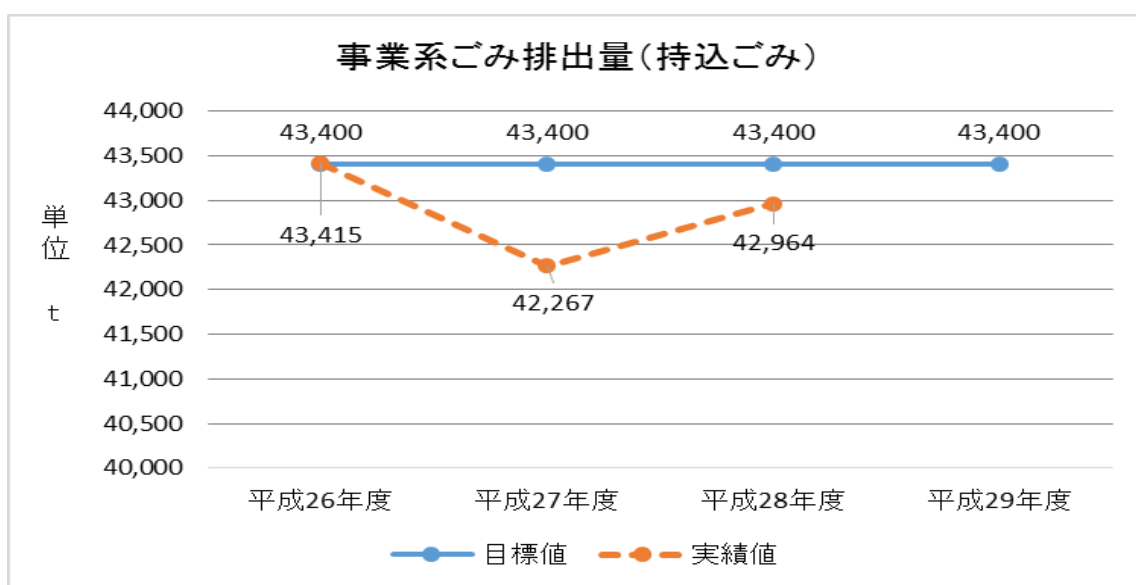
(古紙、びん・缶、ペットボトル、小型家電、陶磁器類等)

○現状分析

燃やすごみに含まれる資源可能物の中で、最も割合の多い古紙類（H29 年度：12.5%）について、「紙資源分別バッグ」や「資源になる紙類大辞典」等を活用し、分別の徹底を啓発したこともあり一定の効果が見られるが、目標値には届いていない。

第三次足立区一般廃棄物処理基本計画における目標値及び実績値

4 目標：事業系ごみ排出量（持込ごみ） 平成 35 年度目標…43,400t/年



【低減目標】

単位：t

	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
目標値	43,400	43,400	43,400	43,400
実績値	43,415	42,267	42,964	未確定

※現状の区の施策を実施した場合、就業者数の減少に伴い事業系ごみも減少していくが、事業者自己処理責任の原則に基づき、区収集から許可事業者による持込ごみに移行することで事業系ごみは増加するが、発生抑制することで排出量を抑制する。

○現状分析

事業系ごみ量は、経済情勢や事業者数の増減などに影響されるが、事業用大規模建築物（延床面積 1,000 m²以上）から排出される事業系ごみの減量や適正処理を図るため立ち入り調査を行ない指導している効果もあり、目標値を達成している。